



### いっしょに考えて

**みなさんは、石巻市釜谷(かまや)の大川小学校を知っていますか?** 2011年3月11日、すぐ前を流れる北上川を大津波(おつなみ)がさかのぼり、地元の家々とともに学校をのみこみました。児童(じどう)74人と先生ら10人が亡(な)くなる、痛(いた)ましいできごとでした。

児童たちはその日、午後2時46分の大地震(だいじしん)の後、約50分間、先生たちと校庭(こうてい)にいたそうでした。校庭の前に山(やま)がありますが、なぜ登(のぼ)って避難(ひなん)しなかったかなど、くわしいことは明(あき)らかになっていません。児童の親(おや)たちは、「なぜ、あの子(こ)たちを助(たす)けられなかったか?」を問(と)い続けています。

**佐藤敏敏郎(51)**は中学校の先生で、大川小(おがわ)だった次女(つぎむすめ)さん(12)を亡(な)くしました。「みずほは、卒業式(そつぎょうしき)で伴奏(ばんそう)するピアノを練習(れんしゅう)していた。あの朝(あさ)もはらきって、『行ってきます』と出(で)かけた。でも、『ただいま』を言(い)えなかった」と佐藤(さとう)さんは話(わ)します。

### 小さな命の意味、いっしょに考えて

「そんな、たくさん命(いのち)のちがある。守(まも)られたかもしれない命(いのち)がある。その話を(はな)したい。命(いのち)と向き合(むか)い、未来(みらい)に生(な)かすことをいっしょに考(かんが)えて」佐藤(さとう)さんは、遺族(いそく)の仲間(なかま)らといっしょに「小さな命(いのち)の意味(いみ)を考(かんが)える会(かい)」をつくり、各地(かくち)で講演(こうえん)をすするなど、大川小(おがわ)で起きたこと、児童(じどう)たちの話を語(かた)り伝(つた)える活動(かつどう)をしています。

**震災(さいがい)の当時(とうじ)**、佐藤(さとう)さんは石巻市(いわき)となり、宮城(みやぎ)県(けん)女川(にょがわ)町の中学校(ちゅうがっこう)で教(おし)えていました。女川(にょがわ)町(まち)も津波(つなみ)被災(ひさい)地(ち)となりました。そこで14年(ねん)4月(がつ)から、ラジオ局(らじおきょく)「女川(にょがわ)FM」のディスクジョッキーを引き受(う)けています。佐藤(さとう)さんはギターを弾(ひ)き、懐(なつ)かしいフオーソクソングなどを地元(ぢよん)のゲストと歌(うた)い、語り合(あ)いながら、震災(さいがい)の日々(ひび)のこと、忘(わす)れられほしくないこと、悲(かな)しみを背負(せお)う人や懸命(けんめい)

# 大川小の子どもたちの話をしたい

みんなにも呼びかけます。「なにげなく過ごす毎日(まいにち)や、見(み)たり触(ふ)れたりしているものが大事(だいじ)だよ。命(いのち)もそう。家(いえ)に帰(かえ)ったら、元氣(げんき)に『ただいま』と言(い)ってほしい。そう言(い)えなかった子どもたちを思い出(おも)して、

女川(にょがわ)FMの番組(ばんぐみ)「おとなのたまごのたまご」は、佐藤(さとう)敏敏郎(たみみら)のたまごのたまご(毎週(まいしゅう)月(げつ)、火(か)、金(きん)、土(ど)、日(にち)放送(ほうそう))。佐藤(さとう)さんは3月(ごうご)14日(にち)、「小さな命(いのち)の意味(いみ)を考(かんが)える あの日(あの日)の大川小(おがわ)小学校(しょうがっこう)の校庭(がうてい)から学(まな)ぶもの」という集(あ)いで話(わ)します。午後(ごご)4時半(じはん)から仙臺(せんたい)市(し)市民活(しみんかつ)動(どう)サポ-トセンター(入場(にゅうじょう)無料(むりょう))。



いまの大川小学校